協働学習
支援ツール
【小・社会】

大型提示装置 ・ 配付機能

小学校 第6学年 社会
「明治の国づくりを進めた人々」

（1）ねらい　板垣退助が明治政府による専制政治を批判した理由を考えることを通して、政府を中心とした明治の改革に対して不満をもち、行動を起こしたことに気付き、その後、国民の政治参加を求める自由民権運動が広まっていったことを理解することができる。

（2）評価規準　板垣退助は、明治政府の専制政治を批判し国会の開設を求めたことや、その後、自由民権運動が広まっていったことを理解している。（知識・技能）

（3）学習展開　（6／8）

過程	学習活動	教師の指導・援助（留意点）
導入	**1　「民撰議院設立の建白書」の内容について知る。** 「民撰議院設立の建白書」の一部、「現在、政治は政府の一部の人間だけが行っている。明治政府の言うことはコロコロ変わり、民衆を困らせている。」を紹介する。 ・明治政府を批判するような内容を言っている。 ・板垣退助も明治政府の一人だったはずなのに、なぜこんなことを言ったのだろう。	・元々は明治政府の一員であった板垣退助が政府に対して批判をしているという関係を明らかにし課題へとつなげる。 【ＩＣＴ活用の工夫】 ・板垣退助の写真を提示し、明治政府の一員であることや明治政府の取組を想起できるようにする。
展開	**2　課題をつかむ。** 板垣退助は明治政府の一員だったはずなのに、なぜ政府を批判したのだろう。 **3　個人追究を行う。** 板垣退助の考え・思い ・明治政府は一部の人間が支配しており不公平である。 ・人々の言論は押さえつけられている。 ・国民は意見を言う権利がある。実現するためには、国会を開設しなければならない。 世論 ・地租改正によって、税の負担が大きくなり、生活が苦しくなっている。 ・不満を解消するために政治に参加したい。 明治政府批判 	・タブレット上に資料を配付する。 ※児童は、教科書や Web 検索など、自分の立てた見通しを基に資料を選択して追究する。 【ＩＣＴ活用の工夫】 ・地域史料を基にした資料を作成し、タブレット上で選択できるようにする。 【ＩＣＴ活用の工夫】 ・より詳しい情報を得るために、Web 検索ができるようにする。
終末	**4　全体交流** **「集会条例」と「岐阜事件」について提示する。** ・明治政府が言論を押さえつけようとしている。 ・政府派の人間から襲われてからも、集会での演説を続けていた。 【深めの発問】 なぜ、板垣は襲われてからも集会での演説を続けたのだろう。 ・みんなの意見が反映される世の中にしたかった。 ・国民が政治参加することが、苦しい生活を救うためにとても大切だと考えていたのだろう。 ・反乱を起こしても政府に敗れてしまうから、武力ではなく言論で主張する必要があった。 **5　「自由民権運動の広まり」を見て、気付いたことを話し合う。** **6　まとめ** 板垣は、明治政府は一部の人間が支配しており、人々は地租改正などの改革によって大きな負担を強いられていたため、政府を批判し、議会の開設を求めていった。その動きは、自由民権運動となって全国各地に広まっていった。	【ＩＣＴ活用の工夫】 ・「集会条例」「岐阜事件」に関する資料を提示し、地元の歴史から考えを深められるようにする。 ・個人追究の中で、疑問に思ったことがあれば、適宜仲間と交流を進める。 ・まとめで使用するキーワードは、黄色で板書に位置付ける。 「言論」「不満」「自由民権運動」 ・政府からの制限や岐阜事件後も自由民権運動を進めていることを確認する。 ・主張の形が武力から言論に変化してきたことを確認する。 【ＩＣＴ活用の工夫】 ・毎時間、タブレット上でまとめを記述させ、学習の足跡が残るようにする。学習の足跡をもとに、個人追究時の深まりに活用できるようにする。

【検証：期待される学習効果】
・複数の資料をタブレット上で準備することで、活用する資料を自己選択し、それを基に考えをもつことができる。
・タブレット上だからこそ、自作資料が作成しやすい。多様な生徒の実態に応じて、読み取りに必要な支援をすることができる。
・まとめを積み上げることでいつでも自分自身の学びを振り返ることができ、本時と前時をつなげて考えを構築できる。